



## 自分の知らない力を引き出してくれる、それが留学

社会の第一線で活躍している先輩たちは、留学経験をどのように捉え、現在の仕事に活かしているのでしょうか。法学部を卒業後、埼玉県警で勤務する田中佑樹さんと渡邊勇樹さんに留学のきっかけから現地での生活、今思うことなどをお伺いしました。



田中 佑樹

2002年、法学部入学。2003年、AUAPでウェスタンワシントン大学へ留学。2006年卒業。法科大学院を経て、2014年、埼玉県警察に採用。現在、地域捜査係として勤務。

### 自分を変え、幅を広げるために留学へ

— 現在、お二人は埼玉県警で活躍されていますが、警察官になろうと思ったきっかけを教えてください。

**田中** 父親が消防士だったので、小さな頃から消防士や警察官に対する憧れがありました。亜細亜大学の法学部で法律を学ぶうちに弁護士になりたいと思うようになり、卒業後は法科大学院へ。司法試験の勉強と並行して国家公務員の勉強もしていて、結果的に警察官を選びました。いずれにしても「人の役に立つ仕事がしたい」という思いが根底にありましたね。

**渡邊** 私の父親が警察官なので、小さな頃からその背中を見て、ごく自然に自分もなりたいたいと思うようになりました。他の選択肢は思い浮かばなかったです。



渡邊 勇樹

2011年、法学部入学。2012年、AUAPでウェスタンワシントン大学に留学。2015年に卒業後、埼玉県警察に採用。現在、交通課で白バイに搭乗し交通指導などを行う。



— 田中さんは2年生の後期、渡邊さんは2年生の前期にAUAPでウェスタンワシントン大学への留学を体験されています。法学部では留学は必修ではありませんが、なぜ留学しようと思ったのですか。

**田中** 小学校高学年の頃、私の家が海外からの留学生を受け入れるホストファミリーになったことがありました。アメリカの女子高校生2人が自宅に滞在したのですが、私が引込み込み思案な性格だったこともあって、うまくコミュニケーションできなかったという苦い経験があります。当時、公文式で英語を学んではいたのですが、緊張して知っている単語すら話せませんでした。その後、亜細亜大学に入学して、1年生の必修科目である「フレッシュマン・イングリッシュ」でネイティブの方と触れ合う機会があった時にも、「もっと英語が話せたら深くコミュニケーションができて楽しいだろうな」と思いました。外国人や英語に対する苦手意識を払しょくするためにも、留学プログラムに参加したかったのです。

**渡邊** 私の祖父はかつて亜細亜大学で教えていて、父も亜細亜大学の卒業生です。祖父も父も海外留学の経験があり、よくその話を聞かされていたので、海外に対する夢が広がっていました。高校の早い段階で亜細亜大学に進みたいと考え、警察官になることも既に決めていました。父が「留学を経験すれば自分の幅が広がるし、社会に出てからもきっと役に立つ」と背中を押してくれたこともあって決意しました。





AUAP  
アメリカ  
ウェスタンワシントン大学



○○○○●○○○●○○○○●  
○○○○●○○○●○○○○●

現地での生活や文化を通して  
リアルな英語を学ぶ

—— 留学前には事前研修などもありますが、実際に行ってみてどうでしたか。英語力の面や異文化への適応など、スムーズにいきましたか。

**田中** もちろん、全く知らない環境に飛び込む不安もありました。ただ、留学するからには漠然と行くのではなく、絶対に何かを得て帰りたいという気持ちが強かったです。留学生の中には日本人同士で固まってしまう人もいるのですが、それだけは避けたいと思っていたので、ルームメイトの中国人となるべく一緒にいて英語で会話するように心がけていました。彼は日本のアニメが好きだったこともあって、コミュニケーションも取りやすく、英語でのやりとりがどんどん楽しくなっていきました。AUAPの学生と関わる際にも、なるべくそのルームメイトも誘って英語で会話するなど、日本語は極力使わないようにしていましたね。



**渡邊** 私は留学する前に野球の選抜でグアムに遠征したことがあったので、特に物おじすることなく飛び込んでいけた気がします。授業では、先生が話す単語が分からなければ、注意深く聞き取ってすぐに電子辞書で調べるようにしていました。ネイティブの人と話す際にも、分からない言葉があれば英語で聞き返して、別の言葉で説明してもらってイメージをつかんでいました。一つの言葉にもさまざまな言い回しがあるので、分からない英語の意味を別の英語で説明してもらうのはとても勉強になりましたね。授業でも日常会話でも、分からないことはそのままにせずに、その場で調べたり、積極的に人に聞く姿勢は大事だと思います。



—— 授業以外に印象に残っている出来事はありませんか。

**田中** ウィンターブレイクを利用してカナダのビクトリアで1週間ホームステイをしました。7歳と5歳の子どもがいる家庭を選んだのですが、子どもはゆっくり話してくれるので会話を学ぶのにも最適でした(笑)。とても温かいホストファミリーで、子どもたちも毎晩おやすみのキスをしてくれて可愛かったです。語学力だけでなく、海外の生活や文化に触れる有意義な体験でした。



**渡邊** 私はずっと野球をやっていたこともあって、シアトルでマリナーズの試合を観たことが忘れられない思い出です。選手たちを目前で観ることのできるバックネット裏の席を取り、サインをもらいました。観戦前に近くの店で自分の名前を背中に入れたユニフォームをオーダーしたことも貴重な経験でした。野球といえば、授業の皆勤賞をいただいた時、ビル・ベック先生からマリナーズの選手のサインボールをプレゼントしていただいたのもうれしかったですね。先生とは今でもメールで連絡を取り合っています。



留学は語学力だけでなく  
自分の潜在能力も引き出してくれる

—— お2人にとって留学の経験は、その後の人生やお仕事にどのように活かされていますか。

**田中** 見知らぬ場所でもなんとかやっていけたことが自信につながりました。引っ込み思案な性格が、留学の経験を通してかなり改善されたと思います。警察の仕事は異動も多いのですが、違う部署に行っても物おじせずに接することができるようになったのは間違いなく留学経験のおかげです。また、交番で勤務していると外国人の方が困って駆け込んでくることも多



埼玉県警  
マスコットキャラクター  
「ポッポくん」

いのですが、苦手意識なく話せるようになったという意味でも、留学は今の仕事にも大いに役立っていると思います。

**渡邊** 警察官は、市民の方々をはじめ多くの人と積極的に関わっていく仕事なので、その点でも留学経験で鍛えられたコミュニケーション能力が活かされていると実感しています。警察官の中でも英語が流暢に話せる人間はまだ多くはないのが現状なので、現場で外国人とのコミュニケーションが取りづらい場合に私が呼ばれることも多々あります。単に言葉の面だけでなく、異文化の生活を体験し、海外の人たちのバックグラウンドを理解しているからこそ言えることもあります。これからは英語が話せる警察官がもっと増えたらよいと思いますね。

—— 最後に留学を考えている在學生と受験生にメッセージをいただけますか。

**田中** 留学という、もともと英語が得意な人や将来英語に関わる仕事に就きたいと考えている人が行くイメージがあったのですが、私のように英語が得意ではなかったり、人と話すのが苦手な人間にとっても、自分を変えることのできる有意義な経験でした。自分を変えるためにも、コミュニケーション能力を高めるためにも、ぜひ挑戦してほしいと思います。

**渡邊** 自分の知らない力を引き出してくれるのが留学ではないでしょうか。行った人にしかわからない世界がありますし、世界を知っているかどうかで、その後、社会人になった時に差が出ると思います。「留学イコール海外の仕事に就く」という概念にはとらわれず、自分の潜在的な力を引き出す体験ととらえてもらえればよいと思います。学生も親御さんも留学に対する不安はあるとは思いますが、知らない世界に勇気をもって飛び込んで行くことで確実に何かが変わります。一回り大きくなって帰って来るとは思いますが、社会人になって大きな壁に直面した時にも、それを乗り越える力が身につくはずですよ。今度、私の弟が亜細亜大学に入学するのですが、私が父に背中を押されたように、私も弟の背中を押して留学に送り出したいと思っています。

—— ありがとうございました。

聞き手  
矢吹 知大  
国際交流センター  
国際交流課職員

